

# 目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	理工学研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

## II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育研究支援体制の整備を行う。	→任期制教員数。 →ティーチング・アシスタント、リサーチ・アシスタント、技術スタッフおよび任期制教員の数。	B	B	B		
2. 教員の研究時間を確保する。	→教員1人当たりの委員会数。	C	C	C		
3. 理工学研究科と関連する倫理規定について啓発活動を行う。	→倫理講習会の開催数。	A	A	A		
4. セミナーが適切な人数で行える施設を確保する。	→セミナーに使える教室数。	C	C	C		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	評価指標データに示されるように、技術スタッフ数の増減はないが、ティーチング・アシスタントとリサーチ・アシスタント数は年々増加しており、教育研究支援体制は整いつつある。任期制教員数は英語修士コースの開設に伴い、2012年度に2名増員される。
目標2	1年間に開催される委員会数と各委員数をもとに、教員一人あたりの委員会出席回数を算出したところ、2009年度は50回、2010年度は50回、2011年度は53回となっている。2011年度の委員会出席回数が増えたのは新学科増設計画に伴うものである。2012年度以降も、新学科増設が具体化されたために委員会の開催数は増加することが予想され、教員の研究時間確保はさらに困難になってきている。
☆ 目標3	理工学部では人権、障がい者、倫理等に関する研修会を毎年1回開催している。また動物実験、ヒトゲノム、遺伝子解析研究に関する安全倫理委員会があり、年に1回講習会を開催している。
目標4	2009年度には新学科開設に合わせて、V号館とVI号館の供用が開始され、IV号館でも少人数のセミナー室を2部屋確保することができた。2010年度には学生実験室の改修工事によりセミナー室を3室確保した。いわば知恵を絞ることで現有のスペースをより使いやすなものにするという方策を取っているが、新たなスペースの構築には至らず、学生数の増加もあり苦しい状況に追い込まれつつある。
備考	